

～ 地域医療支援病院としての役割を意識して
地域と医療の連携を深める ～

発行日 平成28年2月吉日
第10号



副院長 塩谷 猛



当センターが、 “埼玉県がん診療指定病院”に！

1 概要

平成28年1月1日付で度当院は、埼玉県から「埼玉県がん診療指定病院」の指定を受けました。

これは当院ががんに関する医療や設備、情報提供、他の医療機関との連携などに優れ、質の高いがん医療を提供できる医療機関であるとして認められたものです。

今日本では2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっています。埼玉県でも全国と同じ傾向で死因の第1位はがんで、上昇の一途をたどっております。そのためがん医療や支援体制のより一層の充実が求められております。

当院は7年前の開設以来、地域医療支援病院として地域の患者さん、地元の医療機関と深く関わりながら、救急医療を含め地域に根ざしたがん医療に取り組んで参りました。今回その努力が評価されたと思います。

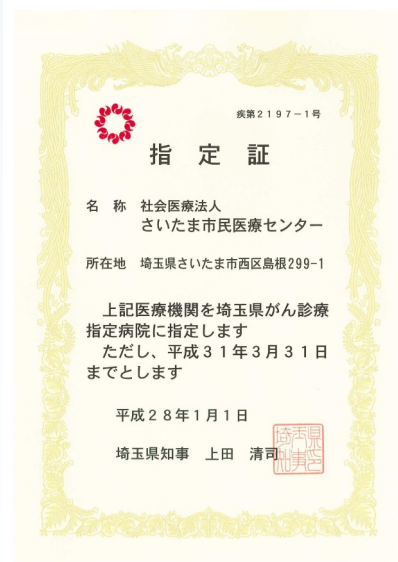
当院のがん医療に対する取り組みにつきまして、一部ご案内いたします。

2 がん医療の専門医療機関

当院では多くの種類のがん診療を行っていますが、特に日本人に多い5大がん(胃、大腸、肝臓、肺、乳)には力を入れております。消化器内科では、早期胃・大腸がんに対する内視鏡的治療(EMR(内視鏡的粘膜切除術)、ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術))を積極的にを行い良好な成績を上げております。また消化器外科でも内視鏡外科手術(腹腔鏡手術)を年間243例(平成26年度)行っています。胃がん、大腸がんのみならず、食道がんに対する胸腔鏡下食道切除の技術は埼玉県内有数の施設です。

診療ガイドラインに準ずる標準的治療を基本としていますが、患者さんそれぞれの状態に合わせた治療を行うために、内科医、外科医、放射線医、病理医らが定期的に一堂に集まり、患者さん個々の病態を共有し、手術療法や化学療法をはじめとしたがんの治療法を効果的に組み合わせる集学的療法に力を入れております。

また、当院では回復期リハビリテーション病床も有しており、リハビリテーション専門職が43名と多く、がんリハビリテーションにも力を入れております。



目次

概 要	1
専門医療機関	2
セカンドオピニオン	2
緩和ケア	2
専門相談室	2
患者会	2
薬局との連携	2
取 組 み	2
医療安全仮室	3
感染対策チーム	3
クリスマスコンサート	4

3 がんセカンドオピニオン外来



5大がんおよび食道、胆道・膵臓、泌尿器系、血液のそれぞれのがんのスペシャリストが相談に乗ります。

対象疾患名	担当科
消化器系がん全般	外科
消化器系がん全般	消化器内科
大腸がん	外科
食道がん・胃がん	外科
肝臓・胆嚢（胆道）・膵臓がん	外科
乳がん	乳腺・内分泌外科
肺がん	呼吸器内科
前立腺がん・膀胱がん・腎臓がん 尿管がんなどの泌尿器系のがん	泌尿器科
緩和ケア	外科
悪性リンパ腫、血液系がん疾患	血液内科

4 緩和ケアの専門チーム、 きめ細かい緩和ケアを提供

緩和ケアチームによる病棟回診の実施や専門医によるがんカウンセリングの場を提供し、患者さんとその御家族と向き合い、がんに対する苦しみや疑問を取り除くケアを行っています。

当センターでのがん医療に関する一部を紹介させて頂いております。
今後も、地域のがん患者さん、ご家族の手助けを出来るよう職員一丸となって邁進してまいります。

患者会

「がんサロン サナンドライズ」

「サナンド」とはスペイン語で「癒し」という意味です。「ライズ」は英語そのもので「向上する・上昇する」という意味の2つの言葉を掛け合わせた当センターオリジナルの造語です。この造語には、当センターの「がん患者会」にご参加いただいた方々が少しでも癒され、前向きな気持ちを高めてもらいたいという思いを込めています。

当センターの「がん患者会」は、入院・外来の患者さん、そのご家族や通院歴のある患者さんなど、どなたでも参加可能です。また、オブザーバーとして医師・看護師・医療ソーシャルワーカーなど病院関係者が入りアドバイスをさせて頂くこともございます。

毎月第4土曜日 10:00～12:00(無料)
予約制となっております。

お気軽にお電話や窓口にて御問合せ下さい。

5 患者さん自身による 患者さんのための「患者会」

患者さんや御家族の方々が、同じ病気を持つ人との交流を通じて、がんと上手く付き合い、自分らしい生活を過ごせるように支援することを目的として「がんサロン サナンドライズ」を月1回開催しています。カウンセリングドクターやセラピストがお手伝いいたします。

6 近隣調剤薬局との連携

近隣の調剤薬局との定期的な会議(医師、看護師、薬剤師らの参加)を開催し、経口抗がん剤を処方されている個々の患者さんの病状を始め、副作用、生活指導、服薬コンプライアンス等の情報共有を図っています。また新規抗がん剤の投与方法や副作用の勉強会を行い、顔の見える連携を取っています。日々の診療では患者さんの持つ「お薬手帳」を活用して、病院-調剤薬局間で注意事項を連絡し合っております。

7 がん救急に対する取り組み

当院はさいたま市内で5番目に多い年間約5,000台の救急車の受け入れを行っています。がん救急(狭窄、閉塞、穿孔、出血、電解質代謝異常など)状態の患者さんも多く受け入れています。特に消化器内科(内視鏡)治療、外科手術に関しては24時間365日受け入れ体制を整えており、さいたま市内はいうに及ばず、県内の大病院からも緊急手術対応患者を引き受けています。

～医療安全管理室のつぶやき～

皆さんこんにちは。早いもので当センターも開院して7年が経とうとしています。インシデント報告も目標数を超えるほどになり、これは職員の安全に対する意識の高まりの“証”ともいえるでしょう。「To err is human(人はだれでも間違える)」という考えから、トラブル対策はシステムの見直しに重点が置かれてきました。しかし医療は“人と人との関わり”です。地域の皆さんに信頼される病院に成長するためにまずは、職員同士で“良好なコミュニケーション”がとれる風土にしていきたいものです。平成28年度はここに注目した活動案を練っていく予定です。



～感染対策チームからのお知らせ～

私たち感染対策チームは、病院内で感染症が職員や患者さんの間で拡大してしまわないよう日々活動を行っております。

医師、看護師、検査技師、薬剤師、事務の5職種で協同し、各職種が専門としている分野の知識を集約し、感染対策を推進しています。

さて、毎年冬季に流行する「インフルエンザ」「感染性胃腸炎」ですが、今季はインフルエンザの流行の始まりが遅く、1月初旬からさいたま市内のインフルエンザ患者さんの報告数が増加し始めました。(図1参照)

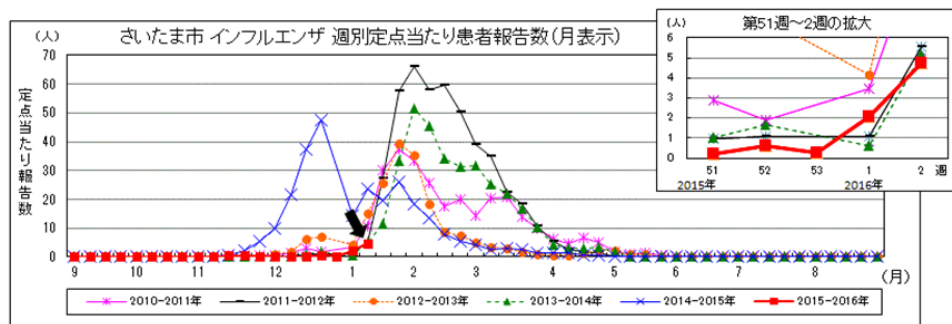


図1. さいたま市WEBサイトよりグラフ引用

<http://www.city.saitama.jp/002/001/008/001/007/002/p007833.html>

インフルエンザの感染予防対策は、家庭内と医療や介護を提供する施設内とでは大きな違いはありません。

インフルエンザにかかってしまった人へ接するときのマスク着用、咳やくしゃみなどの症状がある人のマスク着用、手指衛生(手指消毒・手洗い)が重要です。日ごろから感染対策を実践し、インフルエンザの拡大を予防しましょう。



用語説明

・インシデント

もともとは出来事、事件、付随するもの(こと)を意味する英語。警視庁の事件現場医療派遣チーム「警視庁IMAT(アイマツト)」は、Incident Medical Assistance Teamの頭文字をとったものである。

・インシデントレポート

医療の現場で事故や過誤を防ぐため、不測の事態につながりかねないひやりとした経験を報告する文書

・インフルエンザ解説

インフルエンザは、罹患した患者さんが咳やくしゃみをした際に発生するしぶき、そのしぶきが付着した手を介して感染します。しぶきにインフルエンザウィルスは付着しています。

埼玉県立大宮光陵高等学校
吹奏楽部 with 内科医師

例年、高校生によるコンサートを開催しておりますが、今回は当センターの内科医師によるミニコンサートも同時に開催しました。

先生方の普段は見ることのできない軽快な演奏に患者さんたちも、大いに盛り上がっていました。

今後も、このようなコンサートを患者さんさんにお届けできるよう心掛けてまいります。

クリスマスコンサート開催（平成27年12月24日）



5 がん患者さんのための「専門相談室」

院内に「がん相談窓口」を設置し、専任の相談員を配置しています。常勤の医療ソーシャルワーカー（相談支援担当）が窓口となり、がん診療に関わる専門職と連携を図り、がんに関する悩みなどの問題解決のお手伝いをしています。当院の患者さんに限らず、地域のがん患者さんや御家族からの相談にも対応しています。

社会医療法人
さいたま市民医療センター

〒331-0054
さいたま市西区島根299-1
TEL 048 (626) 0011
FAX 048 (799) 5146
Web : <http://www.scmc.or.jp/>

病院理念

市民の健康と生命を守るため、地域医療連携の中心的な役割を果たし、

安全で良質な医療の提供に努めます。